

第14回 みどりのまちづくり賞

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2025

第14回 みどりのまちづくり賞
(大阪ランドスケープ賞2025)

作 品 集

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2025

主 催

大 阪 府

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

みどりのまちづくり賞 事務局

〒540-0008 大阪市中央区大手前3丁目2-12
大阪府 都市整備部 公園課 企画推進グループ内
電話：06-6941-0351(内線2984) FAX：06-6944-6796



みどりのまちづくり賞は、「みどりの風を感じる大都市・大阪」を推進する大阪府、「自然と人間との共生」を掲げる公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、並びに、「みどり豊かなランドスケープデザインとマネジメント」を目指す一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部の3者が共催で実施しています。

かけがえのないみどりを守り、増やし、豊かな環境を後世に残し、魅力的なまちづくりを進めるためには、駅前や企業の敷地、公共施設の周辺などのセミパブリック空間をまち並みと調和した花や緑あふれる美しい景観として創造し、さらにそれらを実現するために取り組まれている多くの人々が笑顔でつながることが大切です。

本賞では、みどりのまちづくりに貢献する「まちが美しくなるみどりづくり」・「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方々を表彰し、みどりへの理解が進み、美しい大阪のまちづくりに寄与できますことを願っています。

総 評



審査委員長
武田 重昭

みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞2025）は、今回で第14回目を迎えた。本賞の歩みを振り返ってみると、2011年度の第1回から今回を含めて、デザイン部門66作品、マネジメント部門51作品の合計117作品が表彰されてきた。これらは大阪におけるみどりのまちづくりの蓄積を示すものであるとともに、それぞれの作品における創意工夫の積み重ねによって、大阪らしいランドスケープが展開されてきた足跡を見て取ることができる。

折しも今年度は、大阪・関西万博が開催され、国内外から多くの人びとが大阪を訪れた。近年のまちづくりの現場では、この万博に向けた整備が進められてきたものも多く、大阪のランドスケープが大きく更新される機会となった。これに応じて、今年度はデザイン部門18作品、マネジメント部門6作品と多数の作品の応募があった。デザイン部門では、公共施設・民間施設ともに質の高いランドスケープがそのまちのイメージを牽引している作品が多かった。また機能面でも緑地の持つ多面的な価値が、住居や業務といった都市機能を増進するものから、医療や文化、さらには地域コミュニティを支えるものまで、ランドスケープの幅広い役割が再確認できるものであった。マネジメント部門では、伝統的な造園技術を継承しながらさらに高め、それらに立脚したまちづくりへの展開を図ろうとするものまで豊かなみどりの管理運営・活動の展開を見ることができた。

応募作品の中には、万博会場における作品も含まれたが、審査時にはすでに会期が終わり、現地審査ができなかったことも含めて選外となったが、この万博を契機に、会場内外で素晴らしいランドスケープが展開されたことは、多くの人びとの印象に残るところである。これからの大阪のランドスケープ分野においては、この万博の輝きをどのように定常的なまちの魅力につなげていくかが問われるフェーズとなる。これまでの蓄積の上に、新たな交流を重ねることで、大阪のランドスケープが国際レベルで展開されていくことが求められている。この好機を最大限に生かし、市民の暮らしに根差した大阪の豊かなみどりのまちづくりが、来訪者にとっても魅力を感じ取れるものとして共有され、まちのトータルな美しさに貢献していくことが必要である。みどりのまちづくり賞は、このような大阪におけるランドスケープ・コミュニケーションの要としての役割を担っていくものと期待している。

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

所在地 茨木市駅前3丁目
事業主 茨木市
設計者 竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体
施工者 株式会社竹中工務店

「おにクル」なんとも特徴的なネーミングだ。一度、聞いたら忘れられない。名前だけでなく、そこでの体験もまた人びとの記憶に残り、茨木市での豊かな暮らしを印象づける場所となっている。特に子供たちは、ここで夢を見つけ、将来、このまちに育ったことを誇らしく振り返るに違いない。元茨木川緑地の桜並木に縁どられたビューが期待感を高め、なだらかな傾斜の芝生広場は思わずエントランスへ駆け寄りたくさせる。すべり台の丘や伐採木を活用した遊び場は屋内外の連続性をつくり、テラスのエッジに設けられた植栽は立体的なリズムを演出している。これらを継起的に体験することで、みどりのシーケンス景観の魅力を身体的に感じることができる。また、各階のテラスは、まちを見下ろす新しい視点場をつくり出し、市街地の背景に見える北摂山系のパノラマが、みどりに抱かれた暮らしに気づかせてくれる。

このように、視対象としても視点場としても効果的に機能する、生活の拠り所としてのランドスケープに市民が集まり、多くの交流の情景が生まれている。まさに市民にとっての待望の景観が市街地の中心部に生まれたことで、茨木の次のイメージを描き出している。

講評：大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 准教授 武田 重昭



ランドスケープデザイン部門
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長賞

シーパスパーク

所在地 泉大津市小松町
事業主 泉大津市
設計者 緑景×E-DESIGN×ジオ・グラフィックデザイン・ラボ設計共同体
施工者 TSUCHIYA株式会社

本作品は、公園用地と民間活用用地を一体的に整備するという、新たな都市公園のかたちを提示した公園である。公共性と民間活力、さらには継続的な運営までを視野に入れた計画は、従来の行政主導型公園の枠を超え、今後の都市空間整備に重要な示唆を与えている。計画段階から継続的に市民ワークショップを実施し、整備前から市民が主体的に公園の計画や運営に関わってきた点も、本公園の大きな特徴である。単なる意見聴取にとどまらず、「地域が自らの公園をつくり育てる」という意識が共有され、デザインとマネジメントが一体的に成立している。また、人と自然の成長・変化を許容する「余白を残した設え」や、里山や畦道の風景の想起させる「おおらかなディテール」も、人と自然が流動性をもって共生する新たなランドスケープの姿を示している。さらに、レインガーデン的な排水処理や自然を学ぶエリアの導入など、環境配慮と学びを日常の中に組み込んだ点も特筆すべきである。本作品は、空間のみならず、プロセスや運営までを含めて構想された、市民共創・自然共生型ランドスケープの優れた事例として高く評価したい。

講評：株式会社庭樹園 代表取締役 富内 匡



アーバンネット御堂筋ビル

所在地 大阪市中央区淡路町
事業主 NTT都市開発株式会社
設計者 KAJIMA DESIGN
施工者 鹿島建設株式会社

大阪の中心を南北に貫くメインストリートである御堂筋。なかでも本作品が位置する淀屋橋から本町の区間は、イチョウ並木が列植された高規格な道路と質の高い沿道建築群がつくり出す空間構成により、優れた街並みが形成されている。本作品は、御堂筋沿道の形態規制の特徴である壁面後退と50m軒線制限により、周辺と連続した壁面とスカイラインが形成されるとともに、御堂筋沿道に点在する近代建築のファサードのデザイン・素材等の要素が少しずつ取り入れられ、低層部では道路に面した店舗配置により賑わいが創出されるなど、御堂筋らしい街並み形成に寄与している。また外構の樹種や舗装は、北側の街区と統一されており、御堂筋沿道の並木が南北方向に繋がるだけでなく、南北2つの街区に挟まれた東西の通りが一体的な並木通りに生まれ変わった。さらに、本作品は地上3階部分に一般に公開された公共的空間を有し、ここから御堂筋を眺めることで、いつもは平面的に眺めるものであった御堂筋のイチョウ並木を俯瞰で立体的に楽しむことが可能であり、御堂筋のランドスケープに新たな価値を提示している。本作品は、御堂筋の歴史や伝統の継承と新たな発展に資するものとして、高く評価できる。

講評：大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 講師 高木 悠里



ランドスケープデザイン部門
奨励賞

NTT WEST i-CAMPUS A棟・QUINTBRRIDGE

所在地 大阪市都島区東野田町
建築主 NTT/TCリース株式会社
事業主 NTT西日本株式会社
設計者 株式会社NTTファシリティーズ
施工者 株式会社竹中工務店

本作品は、多様な都市要素が混在する敷地に対し、内部空間において、きわめて豊かな緑と建築が一体となった高質なデザインを展開している点が際立つ。緑地帯を一段下げて「川」に見立て、歩行動線を「橋」として構成する手法は明快であり、雨水貯留機能を備えた多様な植生が、環境性能と防災性を兼ね備えた空間を生み出している。日照条件を考慮し、水辺における多様な植生環境を創出している点にも一貫性が見られる。水辺の豊かな緑の景観が心地よい滞留環境を形成し、都市の中に新たな価値をもたらしている。一方で、外部境界はセットバックされ、地域性の高い石積みと豊かな植栽帯で処理されているものの、石積みの高さによる圧迫感や、外部から内部へアクセスしづらい点が惜しまれる。

講評：株式会社庭樹園 代表取締役 宮内 匡



カサレ城東ガーデンプレイス

所在地 大阪市城東区今福東
事業主 アートプランニング株式会社
設計者 不二建設株式会社 一級建築士事務所
施工者 不二建設株式会社

エントランスホールからの眺めるまちを生けどる印象的なみどり、外周道路に豊かな表情をのぞかせるみどり。家を出て駅へ向かう「行ってらっしゃい」と背中を押してくれるようなビスタと、駅から家へ帰るときの「お帰りなさい」と包み込んでくれるような圍繞感のある玄関まわり。滞留してふと見つめるさり気ないシーンと、まちを歩きかいたが変化を楽しむシーケンス。内からと外から、行きと帰り、シーンとシーケンス、同じ空間でありながら、視点によって見事に変化する多義的なデザインである。ちょっとしたランドフォームや視線との絶妙な高さ関係の囲障、坪庭の効果的な一本など、繊細なスタディによって優しい住まいの景が織りなされている。

講評：大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 准教授 武田 重昭



万博記念公園日本庭園景観維持・創出及びマネジメント

所在地 吹田市千里万博公園
活動者 阪神造園建設業共同組合

1970年の大阪万博の会場の一部として26haという広大な日本庭園がつくられた。戦後の関西ではじめて国際的に来訪者を受け入れるために、最高の造園技術を集結した作庭が行われた。せせらぎの園路を歩くと、上代から中世、近世、さらに現代へと各時代の景が移り変わるとともに「人類の進歩と調和」という一連の物語性も表現されている。このような作庭の意図を深く理解するとともに、50年以上の歳月の中で大きく変わってきた自然の状態を的確に捉え、当時以上の庭の質を維持するための不断の手入れが行われている。ここに庭は展示装置から、この地に相応しい風土へと昇華されつつある。

歴史のある庭園であればあるほど、樹木の植え替えや大透かしのよう大胆に手を入れる管理には、十分な知識や経験が不可欠であり、ともすれば敬遠されがちである。ここでは手入れが適切に行われているだけでなく、作業の公開やガイドツアーなどを通して、高度な技術が広報手段としても生かされている。さらに、伝統技術を後世に伝えていくために、若い職人や学生への講習会・技術指導が重ねられており、庭園が生きた自然の場所であると同時に、生きたコミュニケーションの場としても機能している。

講評：大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 准教授 武田 重昭



ランドスケープマネジメント部門
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長賞

江坂ひとときプロジェクト

所在地 大阪市吹田市江坂町
活動者 江坂ひとときプロジェクト

大阪府のベッドタウン、吹田市「江坂」駅にほど近い市街地の倉庫跡地を、都市と里山をつなぐコミュニティガーデンとして再生したプロジェクト。きっかけは、発起人の一人が、能勢・豊能地域でゼロカーボンのまちづくりに関わる中、人口減少や高齢化を背景に、目の当たりにした管理不全の森林や耕作放棄地の増加をはじめ、里山が直面している危機。一方で、市街地では人のつながりが希薄になり、子どもたちの成長にも欠かせない地域や自然との関わりが失われてきていることへの危機感もあったという。

そこから導き出された両者を結ぶチャレンジが素晴らしい。能勢・豊能の里山材を活用した建物や花壇、シンボルツリーに見守られる芝生広場、敷地を縁取るように設けられたビオトープ。地域の住民、地元の小学校や保育園など、延べ1000人もの協働作業でかなえられた。

共感の連鎖は、自発的な活動を誘発し、ガーデンの水やりや植え替えを楽しみながら続けるガーデニングサークル「みんなのにわ部」も誕生し、小学校や保育園と連携した自然体験プログラムや、不登校支援団体や大学との協働など、豊かな学びと交流が生まれている。暮らしとともにあるグリーンインフラの好例として、国際花と緑の博覧会記念協会会長賞にふさわしい。

講評：大阪ガスネットワーク(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員 弘本 由香里



咲くやこの花館 エルフガーデンプロジェクト

所在地 大阪市鶴見区緑地公園
活動者 一般財団法人大阪スポーツみどり財団 咲くやこの花館

1990年に開催された「国際花と緑の博覧会(略称:花博)」のメインパビリオンとして建設された「咲くやこの花館」。今も全国に誇る花と緑の拠点だ。その屋外庭園の一部に、2011年に設けられたプチ・イングリッシュガーデンは、2022年から「エルフガーデン」と称し、夏の除草労力を軽減して、ボランティアによる維持管理を可能にする、実践が重ねられてきた。各地のコミュニティガーデンが直面する除草対策を創造的かつ合理的に解決するための、技術の習得と普及の場として機能している。2025年「大阪・関西万博」開催を機に、その取り組みをより多くの人に知ってもらえるよう、英国式石積みによるモニュメント「記憶 Recollection」も設置された。素晴らしいレガシーであり、いっそうの普及を願う。

講評:大阪ガスネットワーク(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員 弘本 由香里



「おじいさんの木」事業

所在地 豊中市庄内東町
活動者 非特定営利法人おおさか緑と樹木の診断協会

人間の人生と同じように、それぞれの樹木にも木生と呼べるような生き様がある。人相にそれが現れるように、木相と言えるような佇まいに親しみや哀愁を感じることができる。「おじいさんの木」と名付けられた木たちは、いずれも素敵なお木生や趣ある木相を持っている。どんな木であってもその場所を離れることはできない。だから、色々な働きかけをしてもらうことで生きている。雨が水を与え、鳥や虫たちが種や花粉を運び、そして人びとが集まって交流し、コミュニティに見守られながら、何年もそこにあり続けて、いまの姿がある。この活動はまちなかに生きる木と私たちの暮らしをつなぎ、愛情を注ぐことで木とともに育つ地域を維持してくれている。

講評:大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 准教授 武田 重昭

久宝寺緑地 シャクヤク園

所在地 八尾市西久宝寺
活動者 株式会社美交工業

久宝寺緑地のシャクヤク園は、1990年の国際花と緑の博覧会に出展されたシャクヤクを迎えるために整備された施設である。なかでも、熊本・肥後発祥でかつて「門外不出」とされた「肥後芍薬」は、大輪の重咲きで花の形がよく整った希少な品種であるが、久宝寺緑地では長らくその保存・育成が行われている。開花シーズンには、肥後芍薬に限らず様々な品種のシャクヤクを楽しむことができる。近年、発祥の地・熊本でも肥後芍薬を栽培されている農家はごく僅かとなり、このような状況に対して、久宝寺緑地では熊本の肥後芍薬保存農家の方々と連携して肥後芍薬の保存・育成と継承に取り組まれている。このような希少品種を守る取組に敬意を表し、取組の発展に期待したい。

講評:大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 講師 高木 悠里



募集対象

大阪府内における、みどりの景観づくり及び活動を実施している府民、団体、企業、市町村など

応募数

- 1. ランドスケープデザイン部門 18件
- 2. ランドスケープマネジメント部門 6件

スケジュール

募 集: 令和7年7月1日(火)～9月16日(火)
第一次審査: 令和7年11月19日(水)
第二次審査: 令和7年12月3日(水)、令和7年12月4日(木)
表 彰 式: 令和8年1月22日(木)

審査方法

みどりのまちづくり審査委員会により、応募書類による書類審査(一次審査)、現地審査(二次審査)により選考。

審査委員長

武田 重昭(大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 准教授)

審査委員

當内 匡(株式会社庭樹園 代表取締役)
弘本由香里(大阪ガスネットワーク(株)事業基盤部エネルギー文化研究所 特任研究員)
高木 悠里(大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 講師)
増田 昇(大阪府立大学名誉教授・農学博士)

表彰式・講評会

開催日時: 令和8年1月22日(木) 10:00～12:00

場 所: 大阪歴史博物館(講堂)

進 行: 表彰式、総評及び作品発表、各作品講評

令和8年1月22日(木)に、大阪歴史博物館4階講堂にて、みどりのまちづくり賞の表彰式・講評会が開催されました。講評会は表彰式の後に行われ、大阪府知事賞、花博協会長賞、CLA関西支部長賞を受賞された5作品の代表者から発表がありました。作品・活動の紹介後、審査委員による講評がありました。

《講評にあたっての審査委員長の言葉》

講評にあたり、武田審査委員長は以下のように総評されました。
本年度は大阪・関西万博が開催されましたが、万博をめざして進められてきた事業が多くあり、大阪のイメージが刷新される機会にもなったのかなと思います。

今年度の応募作品は、デザイン部門で18作品、マネジメント部門で6作品と、昨年度より多くの応募作品がありました。

ランドスケープデザイン部門では、その場所のイメージを大きく変えて牽引していくようなデザインの作品が多く、都市機能の増進やコミュニティ機能など緑の持つ多様な価値を再認識できる作品を多く感じました。

ランドスケープマネジメント部門では、伝統的な造園技術の継承から、そのような技術や知見をまちづくりに展開していく取り組みまで、豊かな緑の管理運営がみられました。

万博を契機として会場内外で素晴らしいランドスケープが展開されてきたことは、大阪府民のみならず、世界の方々も含めて多くの人々に印象に残ったことかと思います。次は、この魅力ある万博のレガシーを日常的な大阪のまちづくりにどうつないでいくかというフェーズになると思います。そこに住んでいる方々にとって魅力的なランドスケープであることが、人々を集めることにつながっていくのではないかと思います。みどりのまちづくり賞という大阪におけるランドスケープのコミュニケーションが起点となってさらに発展していくことを期待しています。」

《まとめの言葉》

武田審査委員長から、本賞を通じて感じたこととして、「デザインやマネジメントに取り組む態度や姿勢みたいなことの素晴らしさ」と「造園技術・ランドスケープ技術の素晴らしさ」の2点が挙げられました。

1 点目「デザインやマネジメントに取り組む態度や姿勢みたいなことの素晴らしさ」については、コンセプトからデザイン・マネジメントまで一貫して思想を持ち続けることの大事さ、色々な方々が寄り集まってどうすれば全体でよい環境が作られるのかというフォローアップの姿勢とランドスケープの高い親和性について述べられました。

2 点目「造園技術・ランドスケープ技術の素晴らしさ」については、ランドスケープは生き物を扱うことによって、人々の関わりやすさを生み出すことや、時間経過による変化を魅力に変えていけることについて述べられました。



表彰式



作品発表



全体記念写真